

(平成 30 年度以前入学生向け)

平成 23 年 3 月 20 日
理工学部教授会承認
平成 31 年 3 月 25 日一部改正

理工学部におけるキャリアガイダンスの実施方法及び教育・指導内容

理工学部は、本学部の学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うことを目的として、以下の実施方法及び教育・指導内容をもって、キャリアガイダンス（社会的・職業的自立に関する指導等）を実施する。

1. 実施の方法

- ① 本学部のキャリアガイダンスは、下表の段階ごとに正課教育と正課外教育及び指導に区分した教育・指導内容をもって実施する。
- ② キャリアガイダンスの教育・指導は、教務委員会と就職委員会を中心に計画・実施・改善を行う。
- ③ 正課教育は、主に教務委員会を中心に、各学科の教育目的に応じて立案し実行する。
- ④ 正課外教育及び指導は、主に就職委員会を中心に、各学科の教育目的に応じて立案・実行する。
- ⑤ 各年次にチューターを配置し、各学生の履修した教育・指導内容を確認しつつ、指導を行う。
- ⑥ 各教員は、それぞれの授業科目に応じたキャリアガイダンスを実施するとともに、教育内容の充実に務める。
- ⑦ 就職委員会は、キャリアセンターの協力の下に、学生の就業力向上のための環境保全に努める。

2. 教育・指導内容

数理科学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	平成 31 年度改組により該当者なし	平成 31 年度改組により該当者なし
II	平成 31 年度改組により該当者なし	平成 31 年度改組により該当者なし
III	平成 31 年度改組により該当者は限られるが、理工学科数理サイエンスコースと同等の実施内容とする。	平成 31 年度改組により該当者は限られるが、理工学科数理サイエンスコースと同等の実施内容とする。

物理科学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	平成 31 年度改組により該当者なし	平成 31 年度改組により該当者なし
II	○3年次配当の学生実験において、実験室で生起する諸問題を自らの方針と見通しを持って解決する訓練を行う。レポート作成に於いて経過、結果を論理的に筋道だてて記述する能力の向上を図る。	○卒業生(社会人)を招待して講演会・座談会を開き、実社会で活躍している先輩の体験談、社会人となる心構えなどを聞く機会を持つ。 ○就職問題専門の外部講師をよび、キャリアに対する基本的考え方を中心としたレクチャーを企画する。
III	○卒業研究の指導で、定期的に進捗状況の報告をさせ、実社会で必要とされるコミュニケーション・プレゼンテーション能力向上を図る(各研究室)。	○チューター教員、就職担当教員などによる個別指導。

知能情報システム学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	平成 31 年度改組により該当者なし	平成 31 年度改組により該当者なし
II	○当学科が提供するインターフェース科目において、情報通信関連企業からOBやOG、人事担当者、技術者、経営者等をゲストスピーカーとして招聘し、情報技術者となるために必要な知識や、情報通信業界の現況を把握するとともにエントリーシート作成の訓練機会を提供する。 ○専門科目において、情報処理関係の資格取得を奨励すると共に、e-Learning 教材を整備し、受験に必要な知識を習得する機会を提供する。 ○専門科目において、社会人、情報技術者としての倫理面を学ぶ機会を提供する科目を開講する。 ○専門科目において、社会人として必要不可欠な、技術英語能力、技術文書作成能力、プレゼンテーション能力を向上させる機会を提供する科目を開講する。	○卒業研究発表会や次年度卒業研究テーマ説明会、進路説明会を開催し、所属研究室選定や大学院進学を含めた進路の決定に参考となる情報を提供する。 ○就職説明会、会社説明会等を適宜開催し、就職先の決定等に参考となる情報を提供する。 ○外部講師を招き、就職対策講座を開催する。 ○情報通信関連企業からOBやOG、人事担当者、技術者、経営者等を招聘し、関連他学科、本学科が提供するコース以外のインターフェース科目を履修する本学科学生、大学院生を対象とした、業界研究セミナーを開催し、情報通信業界の現況を把握するとともにエントリーシート作成の訓練機会を提供する。
III	○卒業研究遂行および卒業論文執筆の過程や、中間発表会、最終発表会での研究発表を通じて、専門分野で自立するための問題発見・解決の方法を学ぶ機会を提供する。	○進路説明会、就職説明会、会社説明会等を適宜開催し、大学院進学を含めた進路の決定等に参考となる情報を提供する。 ○外部講師を招き、就職対策講座を開催する。

機能物質化学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	平成 31 年度改組により該当者なし	平成 31 年度改組により該当者なし

II	<p>○専門分野で自立するための知識・技能に関する講義を取り入れた専門科目の講義を一部で実施する。</p> <p>○専門分野と社会との関わりを取り入れた専門科目の講義を一部で実施する。</p>	<p>○各学期開始時にオリエンテーションを実施して指導する。</p> <p>○各学期開始時にチューター面談を行い指導する。</p> <p>○3年次研修旅行で企業見学を実施する。</p> <p>○本学部卒業生による就職懇談会を開催し、社会で活躍している技術者の講演を聴講させる。</p> <p>○3年後期より就職説明会を開いて就職活動を支援する。</p>
III	<p>○「卒業研究」で問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力の個別指導。</p> <p>○「化学技術者倫理」の講義で社会性を修得させる。</p>	<p>○就職担当教員主導で進路説明会、就職説明会、会社説明会等を適宜開く。</p>

機械システム工学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	平成31年度改組により該当者なし	平成31年度改組により該当者なし
II	<p>○「技術者倫理」などの専門科目において、技術者としての社会との関わり方について自ら問題点を考えながら学ばせ、専門分野と社会とのつながり、専門知識の社会的な意義を意識させる。</p> <p>○基本教養科目、インターフェース科目、周辺科目を通じて、職業人として必要な幅広い教養を身につけさせる。</p>	<p>○工場見学を実施し、現場の見学を通じて、社会におけるものづくりの重要性を再認識させる。</p> <p>○希望者に対して、旋盤、仕上げなどの技能検定試験の受検を目指した実技指導を行う。</p> <p>○TOEIC IPテストを実施し、全学生に受験するよう指導することで、英語能力の研鑽に努めさせる。</p>
III	<p>○専門科目を通じて、専門分野で自立するための知識・技能を意識させ、必要な専門知識の習得方法を身につけさせる。</p> <p>○「創造工学演習」および「機械システム工学 PBL」において、自ら問題を設定、解決する能力を養い、ものづくりのプロセスを擬似体験させるとともに、プレゼンテーションの技能を学ばせる。</p> <p>○卒業研究および卒業論文作成において、専門分野で自立するための問題発見・解決の方途を学ばせるとともに、プレゼンテーション技術についても指導する。</p>	<p>○就職説明会を開催すると共に、就職担当による個別面談を複数回実施し、就職活動方法についての知識を身につけさせる。</p> <p>○SPI を学科で実施し、全学生に受験するよう指導することで、就業への意識を高めさせる。</p> <p>○本学部卒業生による「キャリアデザインセミナー」と「機械系技術者の教育・育成講演会」を開催し、社会で活躍している技術者の講演を聴講させる。</p> <p>○インターンシップへの参加を奨励し、選択科目「機械システム学外実習」としての単位認定を行う。</p>

電気電子工学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	平成31年度改組により該当者なし	平成31年度改組により該当者なし

II	<p>○「大学入門科目II」において、基本的な実験機器の使い方に触れ、実験の進め方について学ぶ。</p> <p>○専門基礎科目及び専門必修科目において、それぞれの専門分野と社会とのつながりを学ばせ、専門知識の社会的な意義を意識させる。</p> <p>○基本教養科目、インターフェース科目において、職業人として必要な幅広い教養を身につけさせる。</p> <p>○所定の基準を満たすインターンシップを「電気電子工学学外実習」として単位認定可能とすることで、インターンシップへの参加を奨励する。</p> <p>○「技術者倫理」において、技術者としての倫理と企業の社会的責任について考え、理解させる。</p>	<p>○電気電子工学分野における最先端の工場等の見学を通じて、社会における電気電子工学の重要性を再認識させる。</p> <p>○本学科卒業生による就職懇談会を開催し、実社会で活躍している先輩の経験談、社会人としての心構えなどを聞く機会を設ける。</p> <p>○3年後期に就職説明会を開催する。</p> <p>○大学としてTOEIC IPテストを開催し、全学生に受験させることで、英語力の向上に努めさせる。</p> <p>○佐賀県内企業のトップを招き、企業が求める人材像などについて講演頂くキャリア講演会を開催する。</p>
III	<p>○専門科目を通じて、専門分野で自立するための知識・技能を意識させる。</p> <p>○実験、演習等において、必要な専門知識の習得方法を身につけさせるとともに、プレゼンテーションの技能を学ばせる。</p> <p>○卒業研究および卒業論文作成のなかで、専門分野で自立するための問題発見・解決の方途を学ばせる。</p>	<p>○就職担当教員主導で進路説明会、就職説明会、会社説明会等を適宜開催する。</p>

都市工学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	平成 31 年度改組により該当者なし	平成 31 年度改組により該当者なし
II	<p>○専門科目を通じて、専門分野で自立するための知識・技能を意識させ、必要な専門知識の習得方法を身につけさせる。</p> <p>○「インターンシップ」を開設し、都市工学関連分野においてインターンシップの機会を提供する。</p> <p>○「都市工学ユニット演習」、「コース共通特別講義」等の演習科目において、社会性や公共性のある課題に取り組み、実社会における専門的職域を理解させる。</p> <p>○「コース共通特別講義」において、技術士一次試験過去問の演習を実施し、資格取得への意識を喚起する。</p>	<p>○都市工学科コース配属説明会を実施し、コースごとの進路や就職、資格と専門科目との関係を理解させる。</p> <p>○各種現地見学会・シンポジウム等への参加を奨励し、専門的な職域を具体的に理解させる。</p> <p>○TOEIC 受験の実施等により、就業への意識を高めさせる。</p>
III	<p>○「技術者倫理」において、専門的職業人に求められる倫理について考え、理解させる。</p> <p>○卒業研究を通じて専門分野で自立するための問題発見・解決の方途を学ばせ、プレゼンテーション技術を身につけさせる。</p>	<p>○学科就職説明会を多数回実施し、本学科卒業生や社会人による講演等を行うとともに、企業研究の方法や進路等について具体的に検討させる。</p>